

令和元年度 星和中学校研究構想図

【星和中学校の教育目標】

厳しく 豊かに いきいきと

実践する生徒の育成

厳しく：誰もが自らの願いに向かって挑戦し、やり抜いている学校

豊かに：誰もが大切にされていると実感できる学校

いきいきと：誰もがより質の高いものを求め、仲間と力を合わせ、創り上げている学校

【新学習指導要領の理念】

- ・基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かし多様な人々との協働を促す教育に努める。
- ・道徳教育や体験活動、多様な表現や鑑賞の活動等を通して、豊かな心や創造性の涵養を目指した教育の充実に努める。

生徒の実態

- ・与えられた課題に対して、これまでの学習を生かして主体的に自分の考えを導いたり、それらを自らの言葉で学級全体の前や班の仲間に説明したりすることができる生徒が多い。
- ・仲間と共に活動することに喜びを見だし、活動の中で仲間のよい姿に目を向け、相手にそれを伝えることができる生徒が多い。
- ・試行錯誤する時間を確保されても、その過程で得られた自分の意見に自信をもつことができず、全体に意見を発信したり主体的に交流したりする姿が少なく、対話的で深い学びにつながっているとは言い難い。

全校研究主題

仲間と共に学び合い、確かな力を身に付けた生徒の育成
～「はっきりさせたい」「聴きたい」という願いをもって行う学びを通して～

研究仮説

生徒一人一人が課題解決の見通しをもち、教師が視点を明確にした必然性のある交流を意図的に位置付け、互いの考えを尊重し合いながら課題解決する学びを積み重ねることで、仲間と共に学び合い、確かな力を身に付けた生徒を育成することができる。

研究内容

【研究内容 1】

- 各教科の学び方における必然性のある交流にするための手立ての工夫と位置付け
 - ・一人一人が課題解決に向かう過程において、必然性を感じながら主体的に取り組める交流にするための意図的な工夫と授業時間内における位置付け

【研究内容 2】

- 課題解決を見通し、視点や方法を明確にした交流の在り方
 - ・一人一人が課題解決に見通しをもち、話し合いの視点や方法を明確にした有効な交流の在り方

【全校研究の基盤づくり】

「共に生きる街・星和」を具現するために、特別の教科道徳、総合的な学習の時間（オレンジ）及び特別活動等、あらゆる教育活動において福祉宣言の理念を反映させる。その中で培った相手を認め、お互いに励まし合う心を基盤に、課題解決に向かう学習集団を育成する。